







改正理由	当該工種の削除に伴う一部改正	改正 現行	
------	----------------	----------	--

現 行						改 正		備 考
種 別	細 別	単 位	数 値	備 考				
構造物撤去工		ノンスリップ撤去	m	1		現行どおり		当該工種の削除に伴い、設計表示単位及び数値を削除
構造物撤去工	冬季安全施設撤去工	吹溜式防雪柵撤去	m	1				
構造物撤去工		吹払式防雪柵撤去	m	1				
構造物撤去工		スノーボール撤去	本	1				
構造物撤去工	旧橋撤去工	鋼製高欄撤去	m	1				
構造物撤去工		舗装版・床版破砕及び撤去	m3	1				
構造物撤去工		桁材撤去	t	1				
仮設工	仮設工	覆工板・敷鉄板	m2	1				
仮設工		覆工板受桁・桁受	t	0.1	数量契約の場合は0.1t			
仮設工		鋼矢板	枚	1				
仮設工		H鋼杭	本	1				
仮設工		アンカー	本	1				
仮設工		タイロッド	t	0.1	数量契約の場合は0.1t			
仮設工		切梁・腹起し	t	0.1	数量契約の場合は0.1t			
仮設工		横矢板	m2	1				
仮設工	水替工	ポンプ排水	日	1				
仮設工	地下水位低下工	ウエルポイント	日	1				
仮設工		ディーブウエル	日	1				
仮設工	連続地中壁工	連続壁(壁式)	エレメント	1				
仮設工		連続壁(柱列式)	セット	1		現行どおり		
仮設工	汚濁防止工	汚濁防止フェンス	m	1				
仮設工	防護施設工	発破防護柵	m2	10				
仮設工		仮囲い・立入防止柵	m	1				
仮設工	土のう工	大型土のう	袋	1				
仮設工	足場工	手摺先行型枠組足場	掛m2	10				
コンクリート構造物		基礎材	m2	10	ただし100m2未満は1m2			
コンクリート構造物		均しコンクリート	m2	10	ただし100m2未満は1m2			
コンクリート構造物		コンクリート	m3	1				
コンクリート構造物		二次コンクリート	m3	1				
コンクリート構造物		鉄筋	t	0.01				
コンクリート構造物		目地材	m2	1				
コンクリート構造物		止水板	m	1				
コンクリート構造物		型枠	m2	10	ただし100m2未満は1m2			
コンクリート構造物		足場	掛m2	10				
コンクリート構造物		支保	空m3	10				
コンクリート構造物		植石張り	m2	1				
コンクリート構造物		水抜パイプ	m	1				
コンクリート構造物		スリップバー	本	1				
コンクリート構造物		防水モルタル	m3	1				
コンクリート構造物		アンカーボルト	本	1				
コンクリート構造物		有孔管	m	1				

1-1-10

改正理由	当該工種の削除に伴う一部改正	改正 現行	
------	----------------	----------	--

現 行						改 正		備 考
種 別	細 別	単 位	数 位	備 考				
共同溝		梯子	本	1				当該工種の削除に伴い、設計表示単位及び数値を削除
共同溝		ステップ	本	1				
共同溝		タラップ	本	1				
共同溝		手摺	m	1				
共同溝		銘板	枚	1				
電線共同溝	掘削工	掘削	m3	100	ただし1000m3未満は10m3			
電線共同溝	埋戻し工	埋戻し	m3	100	ただし1000m3未満は10m3			
電線共同溝	電線共同溝工	管路	m	1				
電線共同溝		プレキャストボックス	個	1				
電線共同溝		蓋	枚	1				
電線共同溝	付帯設備工	ハンドホール	箇所	1				
植栽維持工	樹木・芝生管理工	樹木せん定	本	1				
植栽維持工		寄植せん定	m2	10				
植栽維持工		補植	本	1				
植栽維持工		移植	本	1				
植栽維持工		支柱	本	1				
植栽維持工		抜根除草	m2	10				
植栽維持工		樹木施肥	本	1				
植栽維持工		寄植・芝施肥	m2	10				
植栽維持工		灌水	m2	10				
植栽維持工		防除	本	1				
植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	m2	10				
植栽維持工		芝刈	m2	1000	ただし100000m2未満は100m2			
河川維持	河川巡視工	緊急巡視	回	1				
河川維持	堤防除草工	除草	m2	1000	ただし100000m2未満は100m2			
河川維持	芝養生工	施肥	m2	1000	ただし100000m2未満は100m2			
河川維持		抜根	m2	1000	ただし100000m2未満は100m2			
河川維持	伐木除根	伐木除根	m2	1000	ただし100000m2未満は100m2			
河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集	m2	1000	ただし100000m2未満は100m2			
河川維持		堆積塵芥収集	m3	10	ただし100m3未満は1m3			
河川維持	水面清掃工	水面清掃	日	1				
河川維持	応急処理作業	応急作業	日	1				
道路修繕	路面切削工	路面切削	m2	10	ただし1000m2未満は1m2			
道路修繕	舗装打換え工	舗装版切断	m	10	ただし100m未満は1m			
道路修繕		舗装版破碎	m2	10	ただし1000m2未満は1m2			
道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	m2	10	ただし1000m2未満は1m2			
道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	中間層	m2	10	ただし1000m2未満は1m2			
道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	m2	10	ただし1000m2未満は1m2			
道路修繕	路上表層再生工	路上表層再生	m2	10	ただし1000m2未満は1m2			
道路修繕	床版補強工(鋼板接着・増桁架設工法)	鋼板接着	m2	1				
道路修繕		クラック処理	m	1				

現行どおり

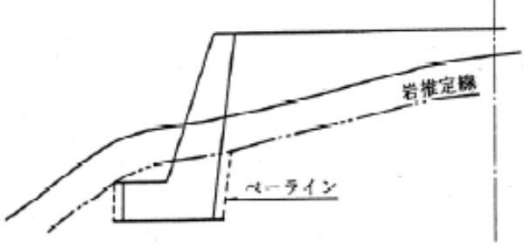
削除

現行どおり

改正理由	当該工種の削除に伴う一部改正	改正 現行	
------	----------------	----------	--

現 行						改 正		備 考
	種 別	細 別	単 位	数 値	備 考			
道路維持	アスファルト舗装維持工	わだち掘れ補修	m2	1		}	現行どおり	当該工種の削除に伴い、設計表示単位及び数値を削除
道路維持		パッチング	t	0.1				
道路維持	付属物復旧工	ガードレール復旧	m	1				
道路維持		ガードケーブル復旧	m	1				
道路維持		ガードパイプ復旧	m	1				
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	m	1				
道路維持		路側標識復旧	基	1				
道路維持		標識板復旧	枚	1				
道路維持		視線誘導標復旧	本	1				
道路維持		距離標復旧	本	1				
道路維持		張紙防止シート復旧	m2	1				
道路維持	路面清掃工	路面清掃(機械)	km	0.1				
道路維持		路面清掃(路肩部・人力)	km	0.1				
道路維持		路面清掃(歩道・人力)	m2	1				
道路維持		路面清掃(歩道橋・地下道・人力)	m2	1				
道路維持		路面清掃(中央分離帯・人力)	m2	1				
道路維持	路肩整正	路肩整正(機械)	km	0.1				
道路維持		路肩整正(人力)	m2	100				
道路維持	排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	m	10				
道路維持		側溝清掃(機械)	km	0.01				
道路維持		管渠清掃	m	10				
道路維持		樹清掃	箇所	1				
道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	m	1				
道路維持		排水管清掃	m	10				
道路維持	道路付属物清掃工	ガードレール清掃	km	0.1				
道路維持		ガードパイプ清掃	m	1				
道路維持		標識清掃	枚	1				
道路維持		トンネル照明器具清掃(機械)	km	0.1				
道路維持		トンネル照明器具清掃(人力)	灯	1				
道路維持		視線誘導標清掃	本	1				
道路維持		トンネル壁面清掃	m2	1				
道路維持	道路除草工	除草	m2	1000	ただし10000m2未満は100m2			
道路維持	応急処理工	応急作業	日	1				
道路維持	冬季安全施設工	スノーポール設置・撤去	本	1				
道路維持		防雪柵	m	1				
道路維持		落雪(せり出し)防護柵	m	1				
道路維持		防雪柵現地張出・収納	m	1				
雪寒	一般・運搬・歩道除雪	各種	時間	1				
雪寒	凍結防止工	各種	時間	1				
雪寒		凍結防止剤	t	1				
雪寒		凍結防止剤	?	1				

1-1-22

現行数量算出要領	改正数量算出要領	1/1																		
第1編(共通編) 第4章 コンクリート工 4.1 コンクリート工	第1編(共通編) 第4章 コンクリート工 4.1 コンクリート工	改正内容																		
<p><b>4章 コンクリート工</b></p> <p><b>4.1 コンクリート工</b></p> <p>1. 適用</p> <div data-bbox="296 562 1291 751" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。  ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)には適用しない。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div data-bbox="326 819 1015 871" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div data-bbox="326 955 682 1008" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>区分は、構造物、規格とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="394 1087 1210 1245"> <thead> <tr> <th>区分項目</th> <th>構造物(名称)</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物(名称)区分  構造物別に各部ごとに算出し集計する。</p> <p>4. 数量算出方法  数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 型枠を設置できない場合はペーラインを計上するものとする。  ペーラインコンクリート厚は以下のとおりとする。  岩着 → 10 cm 土着 → 5 cm</p> <p>(例)</p> 	区分項目	構造物(名称)	規格	単位	数量	備考	コンクリート	○	○	m <sup>3</sup>			均しコンクリート	○	○	m <sup>2</sup>		参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。	<div data-bbox="1573 556 2522 756" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。  ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、<u>砂防コンクリート</u>、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)には適用しない。</p> </div>	<p>基準書の改正に伴う修正(適用範囲外の明確化)</p>
区分項目	構造物(名称)	規格	単位	数量	備考															
コンクリート	○	○	m <sup>3</sup>																	
均しコンクリート	○	○	m <sup>2</sup>		参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。															

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第1編（共通編） 第5章（法覆工） 5.6井桁ブロック積工

第1編（共通編） 第5章（法覆工） 5.6井桁ブロック積工

改正内容

5.6 井桁ブロック積工

1. 適用

鉄筋コンクリート製のブロック桁を井桁状に施工する場合に適用する。

2. 数量算出項目

井桁ブロック工の面積及び現場打基礎コンクリートの体積を算出する。

3. 区分

区分は、規格、控長、組立法長とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	控長	組立法長	打設地上高さ	単位	数量	備考
井桁ブロック積	○	○	○	—	m <sup>2</sup>		中詰（割） 栗石を含む。
現場打基礎 コンクリート	○	○	—	○	m		

注) 1. 鉄筋、吸出し防止材等が必要な場合、及び組立法長が6mを超える場合で裏込砕石が必要な場合は別途算出する。  
2. 控長の適用は、連数にかかわらず全体の控長とする。  
3. 現場打基礎コンクリートについては、体積(m<sup>3</sup>)も算出すること。

(2) 控長区分

控長による区分は、下記のとおりとする。

- ① 0.7m以上1.3m未満
- ② 1.3m以上2.0m未満
- ③ 2.0m以上3.0m未満

(3) 組立法長区分

組立法長による区分は、下記のとおりとする。

- ① 2m未満
- ② 2m以上6m以下
- ③ 6mを超え20m以下

(4) 打設地上高さ区分

打設地上高さによる区分は、下記のとおりとする。

- ① 2m以下
- ② 2mを超える

削除

歩掛使用件数減少に伴う廃止

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第1編（共通編） 第5章（法覆工） 5. 6井桁ブロック積工

第1編（共通編） 第5章（法覆工） 5. 6井桁ブロック積工

改正内容

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

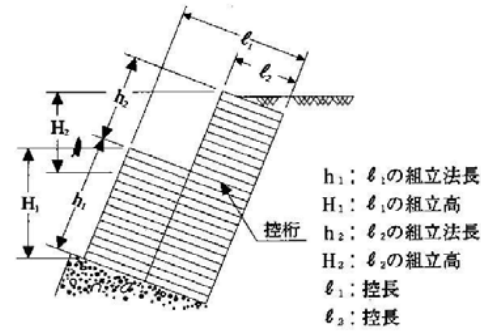
(1) 中詰工

枠内中詰栗（割）石の使用量を次式により算出する。

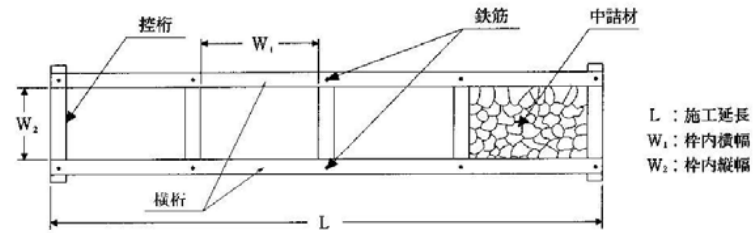
$$\text{使用量(m}^3\text{)} = \text{枠内横幅} W_1 \text{(m)} \times \text{枠内縦幅} W_2 \text{(m)} \times \text{組立法長} h \text{(m)} \times \text{枠数}$$

注) ロスは含めないこと。

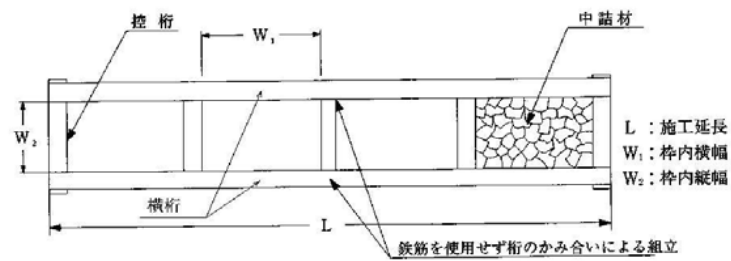
井桁ブロック概念図



1) 鉄筋による組立式井桁ブロック平面図



2) 組合せ式井桁ブロック平面図



井桁ブロックの施工面積は、次式による。

$$\text{控長} l_1 \text{の施工面積(m}^2\text{)} = \text{組立法長} h_1 \text{(m)} \times \text{施工延長} L \text{(m)}$$

$$\text{控長} l_2 \text{の施工面積(m}^2\text{)} = \text{組立法長} h_2 \text{(m)} \times \text{施工延長} L \text{(m)}$$

(2) 鉄筋工

井桁ブロック（組立式）の場合は、鉄筋の数量を区分ごとに「4章コンクリート工」により算出する。

(3) 足場および手摺

足場および手摺については、数量計上しない。

(4) 横桁・控桁

横桁・控桁の区分ごとに使用本数を算出する。

削除

歩掛使用件数減少に伴う廃止

現 行 数 量 算 出 要 領

改 正 数 量 算 出 要 領

第 1 編 (共通編) 8 章地盤改良工 袋詰式サンドドレーン工

第 1 編 (共通編) 8 章地盤改良工 袋詰式サンドドレーン工

改正内容

8.2 袋詰式サンドドレーン工

1. 適用

粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う袋詰式サンドドレーン工（杭径120mm）に適用する。

2. 数量算出項目

ドレーン杭本数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、打設長、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目 \ 区 分	打設長	規 格	単 位	数 量	備 考
袋詰式サンドドレーン	○	○	本		
サ ン ド マ ッ ト	×	○	m <sup>2</sup>		t = m
土木安定シート・ネット	×	○	m <sup>2</sup>		

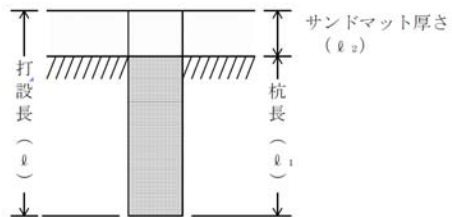
(2) 打設長区分

ドレーン杭本数を打設長ごとに区分して算出する。

(3) 規格区分

サンドマットは設計敷厚 (m) 毎、土木安定シート・ネットは使用する規格毎に区分して算出する。

4. 参考図 (施工図)



削除

歩掛使用件数減少に伴う廃止

## 現行数量算出要領

## 改正数量算出要領

第1編(共通編) 第9章(基礎工) 9.3 コンクリート矢板工

改正内容

## 9.3 コンクリート矢板工

## 1. 適用

コンクリート矢板を、施工する場合に適用する。

## 2. 数量算出項目

コンクリート矢板の延長、枚数を区分ごとに算出する。

## 3. 区分

区分は、打込み長、矢板幅、規格とする。

## (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分			単位	数量	備考
	打込み長	矢板幅	規格			
延長	○	○	○	m		
枚数	○	○	○	枚		

## (2) 打込み長

コンクリート矢板の延長と枚数を打込み長ごとに区分して算出する。  
なお、打込み長における最大N値を算出する。

## (3) 矢板幅

矢板幅による区分は、以下のとおりとする。



削除

歩掛使用頻度の減少に伴う廃止

現行数量算出要領	改正数量算出要領	No.1/2																																																																																
第1編(共通編) 9章 基礎工 9.7オープンケーソン基礎工		改正内容																																																																																
<p><b>9.7 オープンケーソン基礎工</b></p> <p>1. 適用</p> <p>機械掘削による陸掘り又は水中掘りオープンケーソン工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>刃口金物据付、沈下掘削、コンクリート、鉄筋、型枠、足場、沈下促進、止水壁取壊し等の数量を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" data-bbox="430 829 1006 1167"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>刃口金物据付</td> <td></td> <td>基(t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>沈下掘削</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>沈下促進</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水壁取壊し</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 刃口金物据付</p> <p>質量は、「第3編(道路編) 4章鋼橋上部工 4.1鋼材」を参照の上算出する。</p> <p>(2) 沈下掘削</p> <p>1) 土質及び掘削深度により下記のように区分して算出する。</p> <p style="text-align: right;">単位：(m<sup>3</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="513 1436 1065 1757"> <thead> <tr> <th rowspan="2">掘削状態</th> <th rowspan="2">掘削深度</th> <th rowspan="2">岩</th> <th colspan="2">岩塊玉石混じり土</th> <th rowspan="2">砂及び砂質土</th> <th rowspan="2">粘土及び粘性土</th> </tr> <tr> <th>II</th> <th>I</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">陸掘り</td> <td>0～10m未満</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10m以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">水中掘り</td> <td>0～20m未満</td> <td>—</td> <td>..</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>20m以上</td> <td>—</td> <td>..</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	規格・仕様	単位	数量	備考	刃口金物据付		基(t)			沈下掘削		m <sup>3</sup>			コンクリート		m <sup>3</sup>			鉄筋		t			型枠		m <sup>2</sup>			足場		掛m <sup>2</sup>			沈下促進		t			止水壁取壊し		m <sup>3</sup>			掘削状態	掘削深度	岩	岩塊玉石混じり土		砂及び砂質土	粘土及び粘性土	II	I	陸掘り	0～10m未満						10m以上						水中掘り	0～20m未満	—	..				20m以上	—	..				<p>削除</p>	<p>歩掛使用件数減少に伴う廃止</p>
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																														
刃口金物据付		基(t)																																																																																
沈下掘削		m <sup>3</sup>																																																																																
コンクリート		m <sup>3</sup>																																																																																
鉄筋		t																																																																																
型枠		m <sup>2</sup>																																																																																
足場		掛m <sup>2</sup>																																																																																
沈下促進		t																																																																																
止水壁取壊し		m <sup>3</sup>																																																																																
掘削状態	掘削深度	岩	岩塊玉石混じり土		砂及び砂質土	粘土及び粘性土																																																																												
			II	I																																																																														
陸掘り	0～10m未満																																																																																	
	10m以上																																																																																	
水中掘り	0～20m未満	—	..																																																																															
	20m以上	—	..																																																																															

現行数量算出要領	改正数量算出要領	No.2/2
第1編(共通編) 9章 基礎工 9.7オープンケーソン基礎工		改正内容
<p>2) 岩塊玉石混じり土の (I)、(II) は、下記のとおりとする。  (I) ---- 径7.5cm以上の岩塊玉石混じり土で小割りを必要としない場合  (II) ---- (I) の土で小割りを必要とする場合</p> <p>3) 掘削深度は、刃口据付面を基準とする。  刃口設置のために掘削及び盛土が必要な場合は別途算出する。</p> <p>(3) 足場  足場の種類は、枠組足場を標準とする。  数量は、次式により算出する。  1ロットの足場面積 (掛<math>m^2</math>) = 1ロットの外周面積<math>\times</math>1.6  なお、上式はケーソン内側の足場数量も含む。</p> <p>(4) コンクリート  コンクリートの数量は、下記の項目ごとに算出する。  ① ケーソン躯体コンクリート  ② 底スラブコンクリート  ③ 上スラブコンクリート  ④ 止水壁コンクリート</p> <p>(5) 鉄筋  鉄筋の数量は、「4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。</p> <p>(6) 型枠  型枠の数量は、「4章コンクリート工 4.2型枠工」により算出する。</p> <p>(7) 沈下促進  載荷工法としてH形鋼・鋼矢板・コンクリートブロック等を用いる。数量は、①規格・寸法、②質量に区分して算出する。</p>	<p>削除</p> <p>ニューマチックケーソン基礎工へ移行</p> <p>削除</p>	<p>歩掛使用件数減少に伴う廃止</p>

現 行 数 量 算 出 要 領	改 正 数 量 算 出 要 領	No.1/1
第1編(共通編) 9章 基礎工 9.8ニューマチックケーソン基礎工	第1編(共通編) 9章 基礎工 9.8ニューマチックケーソン基礎工	改正内容
<p>(3) コンクリート及びグラウト量  コンクリート及びグラウトの数量は、下記の項目ごとに算出する。  ① ケーソン躯体コンクリート  ② 底スラブコンクリート  ③ 上スラブコンクリート  ④ 止水壁コンクリート  ⑤ 中埋コンクリート  ⑥ コンタクトグラウト</p> <p>(4) 鉄筋  鉄筋の数量は、「第1編(共通編) 4章コンクリート工 4.3.1 鉄筋工」により算出する。</p> <p>(5) 型枠  型枠の数量は、「第1編(共通編) 4章コンクリート工 4.2 型枠工」により算出する。</p> <p>(6) 足場  足場の数量は、「第1編(共通編) 9章基礎工 9.7 オープンケーソン基礎工」により算出する。</p> <p>(7) 沈下促進  載荷工法は、水荷重(ポンプによる注排水)を標準とし、水量(t)を算出する。  なお、必要により鋼材を用いる場合は「第1編(共通編) 9章基礎工 9.7 オープンケーソン基礎工」により算出する。</p> <p>(8) 送気延長は、空気圧縮機からゲージ設備までと、ゲージ設備からケーソンまでとに区分して算出する。</p>	<p>足場の種類は、<u>枠組足場を標準とする。</u>  数量は、<u>次式により算出する。</u>  <u>1ロットの足場面積(掛m<sup>2</sup>) = 1ロットの外周面積 × 1.6</u>  <u>なお、上式はケーソン内側の足場数量も含む。</u></p> <p>→ <b>削除</b></p>	<p>オープンケーソン基礎工から移行</p>

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第1編(共通編) 11章 仮設工 11.1土留・仮締切工

第1編(共通編) 11章 仮設工 11.1土留・仮締切工

改正内容

3. 仮設材設置撤去工

(1) 数量算出項目

切梁、腹起し、タイロッド、横矢板、覆工板、覆工板受桁等の数量を区分ごとに算出する。

(2) 区分

区分は、施工箇所、規格とする。

1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工箇所	規格	単位	数量	備考	
切梁・腹起し	○		○	t			
タイロッド・腹起し			○	t			
横 矢 板			○	m <sup>2</sup>			
覆 工 板			○	m <sup>2</sup>			
覆工板受桁			○	t			設置面積700㎡を超える場合
覆工板受桁用桁受			○	t			設置面積700㎡を超える場合

2) 施工箇所区分

施工箇所（ブロック）ごとに区分して算出する。

3) 規格区分

仮設材の材質、型式、寸法等ごとに区分して算出する。

(3) 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

1) 切梁・腹起し等

切梁・腹起し等の質量は、下表の算出方法により算出する。

部材名	部 品 名	質量算出方法	備 考
主部材	切梁、腹起し、 火打梁、補助ピース	積上げ	キンジヤッキ・火打受ピース(火打ブロック)の長さに相当する部材長の質量を控除すること。
副部材 (A)	隅部ピース、交差部ピース、 カバープレート、キンジヤッキ、 ジャッキカバー、ジャッキハンドル、 火打受ピース、腰掛金物、 (火打ブロック)	主部材質量 × 0.22 (0.67)	キンジヤッキ・火打受ピースの長さは、どちらも50cmとする。 火打ブロックを使用する場合は、 ( )内の値とする。
副部材 (B)	ブラケット、ボルト、 ナット	主部材質量 × 0.04 (0.06)	1現場全損とする。 火打ブロックを使用する場合は、 ( )内の値とする。

注) 1. 運搬質量については、主部材、副部材 (A) (リース材) について計

部材名	部 品 名	質量算出方法	備 考
主部材	切梁、腹起し、 火打梁、補助ピース	積上げ	キンジヤッキ・火打受ピース(火打ブロック)の長さに相当する部材長の質量を控除すること。
副部材 (A)	隅部ピース、交差部ピース、 カバープレート、キンジヤッキ、 ジャッキカバー、ジャッキハンドル、 火打受ピース、腰掛金物、 (火打ブロック)	主部材質量 × 0.22 (0.67)	キンジヤッキ・火打受ピースの長さは、どちらも50cmとする。 火打ブロックを使用する場合は、 ( )内の値とする。
副部材 (B)	ブラケット、ボルト、 ナット	主部材質量 × 0.04 (0.06)	<del>1</del> 回毎全損とする。 火打ブロックを使用する場合は、 ( )内の値とする。

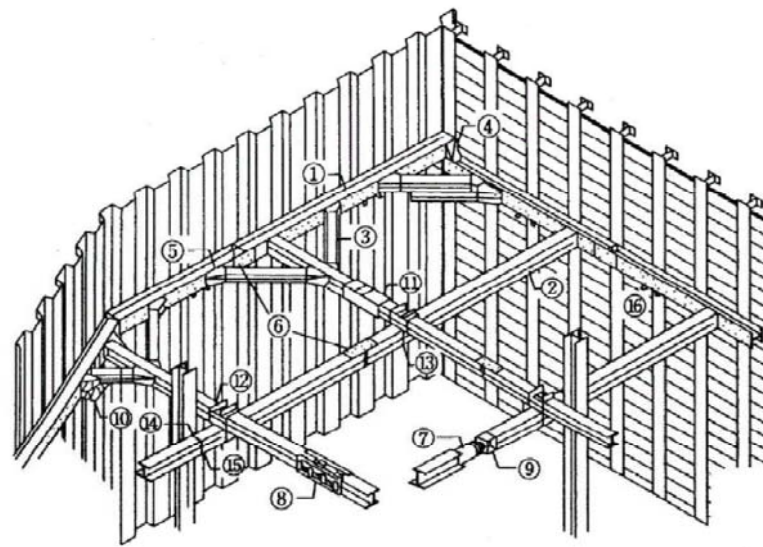
表記の見直し

現行数量算出要領

第1編(共通編) 11章 仮設工 11.1土留・仮締切工

上するものとし、副部材 (B) (1現場全損とするもの) については運搬重量として計上しない。

- 2) 横矢板  
横矢板の数量は、横矢板を施工する壁面積を算出する。  
なお、規格には、横矢板厚を表示すること。
- 3) 土留め・締切概念図



No	部材名称
1	腹起し
2	切梁
3	火打梁
4	隅部ピース
5	火打受ピース
6	カバープレート
7	キリンジャッキ
8	ジャッキカバー
9	補助ピース
10	自在火打受ピース
11	土圧計
12	交叉部ピース
13	交叉部Uボルト
14	締付用Uボルト
15	切梁ブラケット
16	腹起し部ブラケット

<参考>

H形鋼(加工材)の単位質量

規格	単位質量(kg/m)
200型	55.0
250型	80.0
300型	100.0
350型	150.0
400型	200.0

改正数量算出要領

第1編(共通編) 11章 仮設工 11.1土留・仮締切工

上するものとし、副部材 (B) (1回毎全損とするもの) については運搬重量として計上しない。

改正内容

表記の見直し

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第1編(共通編) 11章 仮設工 11.14連続地中壁工

改正内容

11.14 連続地中壁工

1. 適用

連続地中壁を施工をする場合に適用する。

2. 数量算出項目

連続地中壁の施工内容を下記項目毎に算出する。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	規格・仕様	単位	数量	備考
連続壁（先行又は後行）工	○	エレメント		
ガイドウォール	○	m		
作業床	○	m <sup>2</sup>		
安定液	○	m <sup>3</sup>		
廃液処理	×	m <sup>3</sup>		

削除

歩掛使用件数減少に伴う廃止

現行数量算出要領	改正数量算出要領	No.2/3																																																												
第1編(共通編) 11章 仮設工 11.14連続地中壁工		改正内容																																																												
<p>3. 数量算出項目            数量の算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 連続壁(先行又は後行)工の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" data-bbox="400 577 1178 1178"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁厚</td> <td></td> <td>×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>掘削深度</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>先行(後行)エレメント掘削長</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1エレメント当り鉄筋かご総質量</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1エレメント施工当り コンクリート設計打設量</td> <td></td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>先行(後行)エレメント 掘削体積</td> <td></td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋かご製作</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>継手材製作</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>空掘部埋戻し</td> <td></td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 壁厚            連続地中壁の壁厚ごとに区分して算出する。            2. 掘削深度            連続地中壁の掘削深度を土質ごとに区分して算出する。            土質による区分は、以下によるものとする。            土質 玉石混じり土・軟岩(土丹含む)                  N &lt; 50                  N ≥ 50            なお、土質区分は、玉石混じり土、軟岩(土丹含む)を優先させる。            3. 掘削長            先行(後行)エレメント掘削長ごとに区分し、継手方式を備考欄に記入する。</p>	項目	区分	規格	単位	数量	備考	壁厚		×	mm			掘削深度		○	m			先行(後行)エレメント掘削長		×	m			1エレメント当り鉄筋かご総質量		○	t			1エレメント施工当り コンクリート設計打設量		○	m <sup>3</sup>			先行(後行)エレメント 掘削体積		×	m <sup>3</sup>			鉄筋かご製作		○	t			継手材製作		○	t			空掘部埋戻し		×	m <sup>3</sup>			<p>削除</p>	<p>歩掛使用件数減少に伴う廃止</p>
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																									
壁厚		×	mm																																																											
掘削深度		○	m																																																											
先行(後行)エレメント掘削長		×	m																																																											
1エレメント当り鉄筋かご総質量		○	t																																																											
1エレメント施工当り コンクリート設計打設量		○	m <sup>3</sup>																																																											
先行(後行)エレメント 掘削体積		×	m <sup>3</sup>																																																											
鉄筋かご製作		○	t																																																											
継手材製作		○	t																																																											
空掘部埋戻し		×	m <sup>3</sup>																																																											

現行数量算出要領

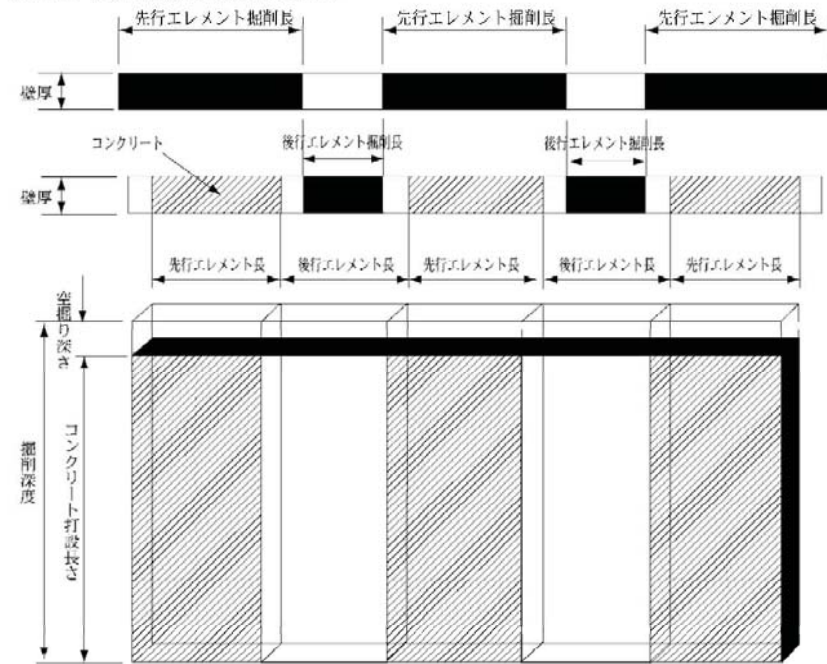
改正数量算出要領

第1編(共通編) 11章 仮設工 11.14連続地中壁工

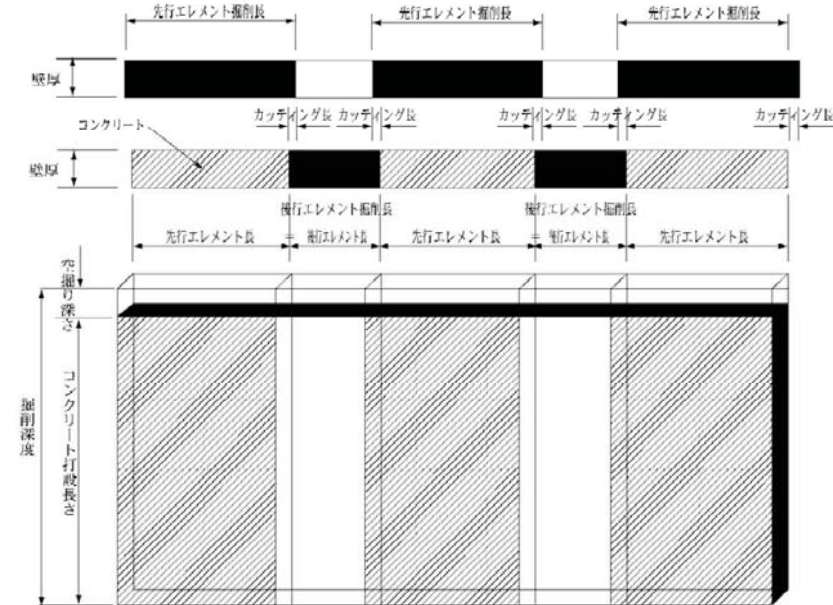
改正内容

4. 施工図

施工図 (接合鋼板継手方式の場合)



施工図 (コンクリートカッティング継手方式の場合)



削除

歩掛使用件数減少に伴う廃止

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第3編(道路編) 第1章 舗装工 1.2 路盤工

第3編(道路編) 第1章 舗装工 1.2 路盤工

改正内容

項目	材料	平均厚さ区分		
下層路盤 (車道・路肩部)	—	75mm 超 125mm 以下		
		125mm 超 175mm 以下		
		175mm 超 200mm 以下		
		200mm 超 225mm 以下		
		225mm 超 275mm 以下		
		275mm 超 325mm 以下		
		325mm 超 375mm 以下		
		375mm 超 400mm 以下		
		400mm 超 425mm 以下		
		425mm 超 475mm 以下		
		475mm 超 525mm 以下		
		525mm 超 575mm 以下		
		575mm 超 600mm 以下		
		600mm 超 625mm 以下		
		625mm 超 675mm 以下		
下層路盤 (歩道部)	—	75mm 超 125mm 以下		
		125mm 超 175mm 以下		
		175mm 超 200mm 以下		
		200mm 超 225mm 以下		
		225mm 超 275mm 以下		
		275mm 超 325mm 以下		
		325mm 超 375mm 以下		
		375mm 超 400mm 以下		
		400mm 超 425mm 以下		
		425mm 超 475mm 以下		
		475mm 超 525mm 以下		
		上層路盤 (車道・路肩部)	瀝青安定処理材(25) 瀝青安定処理材(30) 瀝青安定処理材(40) 再生瀝青安定処理材(40) 路盤材(各種)	45mm 超 55mm 以下
				55mm 超 65mm 以下
				65mm 超 75mm 以下
				75mm 超 85mm 以下
85mm 超 95mm 以下				
95mm 超 105mm 以下				
105mm 超 115mm 以下				
115mm 超 125mm 以下				
125mm 超 135mm 以下				
135mm 超 145mm 以下				
145mm 超 155mm 以下				
再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 RM-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材(各種)	155mm 超 165mm 以下			
	165mm 超 175mm 以下			
	175mm 超 185mm 以下			
	185mm 超 195mm 以下			
	25mm 超 75mm 以下			
	75mm 超 125mm 以下			
	125mm 超 150mm 以下			
	150mm 超 175mm 以下			
	175mm 超 225mm 以下			
	225mm 超 275mm 以下			
上層路盤 (歩道部)	—	75mm 超 125mm 以下		
		125mm 超 150mm 以下		
		150mm 超 175mm 以下		
		175mm 超 225mm 以下		
		225mm 超 275mm 以下		
		275mm 超 300mm 以下		
		300mm 超 325mm 以下		
		325mm 超 375mm 以下		
		375mm 超 425mm 以下		

項目	材料	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)	—	75mm 超 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
		475mm 超 525mm 以下
		525mm 超 575mm 以下
		575mm 超 600mm 以下
		600mm 超 625mm 以下
		625mm 超 675mm 以下
		<del>675mm 超 725mm 以下</del>
		<del>725mm 超 775mm 以下</del>
		<del>775mm 超 800mm 以下</del>
		<del>800mm 超 825mm 以下</del>
		<del>825mm 超 875mm 以下</del>
		下層路盤 (歩道部)
925mm 超 975mm 以下		
975mm 超 1000mm 以下		
1000mm 超 1025mm 以下		
1025mm 超 1075mm 以下		
1075mm 超 1125mm 以下		
<del>25mm 超 75mm 以下</del>		
<del>75mm 超 125mm 以下</del>		
125mm 超 175mm 以下		
175mm 超 200mm 以下		
200mm 超 225mm 以下		
225mm 超 275mm 以下		
275mm 超 325mm 以下		
325mm 超 375mm 以下		
375mm 超 400mm 以下		
上層路盤 (車道・路肩部)	瀝青安定処理材(25) 瀝青安定処理材(30) 瀝青安定処理材(40) 再生瀝青安定処理材(40) 路盤材(各種)	45mm 超 55mm 以下
		55mm 超 65mm 以下
		65mm 超 75mm 以下
		75mm 超 85mm 以下
		85mm 超 95mm 以下
		95mm 超 105mm 以下
		105mm 超 115mm 以下
		115mm 超 125mm 以下
		125mm 超 135mm 以下
		135mm 超 145mm 以下
		145mm 超 155mm 以下
	再生粒度調整碎石 RM-25 再生粒度調整碎石 RM-30 再生粒度調整碎石 RM-40 粒度調整碎石 M-25 粒度調整碎石 M-30 粒度調整碎石 M-40 路盤材(各種)	155mm 超 165mm 以下
		165mm 超 175mm 以下
		175mm 超 185mm 以下
		185mm 超 195mm 以下
上層路盤 (歩道部)	—	25mm 超 75mm 以下
		75mm 超 125mm 以下
		125mm 超 150mm 以下
		150mm 超 175mm 以下
		175mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 300mm 以下
		300mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 425mm 以下

(3) 平均幅員区分  
① 1.4m 未満  
② 1.4m 以上

基準書の改正に伴う修正(平均厚さ区分の変更)

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第3編(道路編) 第1章 舗装工 1.3 アスファルト舗装工

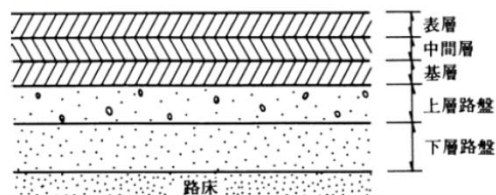
第3編(道路編) 第1章 舗装工 1.3 アスファルト舗装工

改正内容

(2) 平均厚さ区分及び規格・瀝青材料種類区分  
 舗装の厚さ及び材料の規格(再生密粒 As13、再生粗粒 As20、再生 As 安定処理路盤等)、瀝青材料種類(タックコート、プライムコート等)ごとに区分して算出する。  
 材料の規格は締固め後密度も示す。

項目	平均厚さ
基層(車道・路肩部) ・ 中間層(車道・路肩部) ・ 表層(車道・路肩部)	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
表層(車道・路肩部)	65mm以上70mm以下
基層(歩道部) ・ 中間層(歩道部) ・ 表層(歩道部)	25mm以上35mm未満
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
表層(歩道部)	65mm以上70mm以下

(アスファルト舗装の構成例)



項目	平均厚さ
基層(車道・路肩部) ・ 中間層(車道・路肩部) ・ 表層(車道・路肩部)	<del>25mm以上35mm未満</del>
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
表層(車道・路肩部)	55mm以上65mm未満
	65mm以上70mm以下
基層(歩道部) ・ 中間層(歩道部) ・ 表層(歩道部)	25mm以上35mm未満
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
表層(歩道部)	65mm以上70mm以下

基準書の改正に伴う修正(平均厚さ区分の変更)

(3) 平均幅員区分  
 平均幅員による区分は、下記のとおりとする。  
 ①1.4m 未満  
 ②1.4m 以上

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第3編（道路編） 第1章（舗装工） 1. 9 薄層カラー舗装工

第3編（道路編） 第1章（舗装工） 1. 9 薄層カラー舗装工

改正内容

1. 9 薄層カラー舗装工

1. 適用

薄層カラー舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・舗装厚とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格・舗装厚	単位	数量	備考
薄層カラー舗装		○	m <sup>2</sup>		

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 薄層カラー舗装は以下の区分により算出する。



(注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様（高輝度タイプを含む）・施工（全面・ゼブラ等）別に区分して算出する。  
2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。

(注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様別に区分して算出する。

(2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編） 1章舗装工 1. 3アスファルト舗装工」による。

規格・仕様の改正に伴う語句の変更

現行数量算出要領

改正数量算出要領

改正内容

第3編(道路編)第2章(付属施設工)2.3.2 洞門(プレキャスト製シェッド)工

第3編(道路編)第2章(付属施設工)2.3.2 洞門(プレキャスト製シェッド)工

歩掛使用件数  
減少に伴う廃止

2.3.2 洞門(プレキャスト製シェッド)工

1. 適用

プレキャストシェッド(逆L型)の架設工事に適用する。

2. 数量算出項目

プレキャスト製シェッドの数量、洞門工の延長、足場工の延長、PC鋼材質量、グラウト材注入量、ゴム支承個数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格及び施工区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	施工区分	単位	数量	備考
プレキャスト製シェッド	○	×	基			
シェッド架設	×	○	セット			柱と主梁のセットで1組
シェッド足場	×	×	m			
横締め	○	×	本			
剛接	○	×	本			
ゴム支承	○	×	個			
PCシェッド防水	○	×	m			
緩衝材	○	○	m <sup>3</sup>			

(2) 施工区分

施工区分は、片側交互交通可能及び全面通行止め可能に区分する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 足場はシェッドの実施工延長とする。

(2) 横締め内訳は下記の項目で算出する。

項目	区分	規格	単位	数量	備考
PC鋼材	○		t		L=○m/本
グラウト	○		m <sup>3</sup>		

(3) 剛接の内訳は下記の項目で算出する。

項目	区分	規格	単位	数量	備考
グラウト	○		m <sup>3</sup>		
保護モルタル	○		m <sup>3</sup>		

削除

現行数量算出要領

改正数量算出要領

改正内容

第3編(道路編)第2章(付属施設工)2.3.2 洞門(フレキャスト製シェット)工

第3編(道路編)第2章(付属施設工)2.3.2 洞門(フレキャスト製シェット)工

歩掛使用件数  
減少に伴う廃止

(4) グラウト

グラウト注入量は、次表を標準とする。

グラウト注入量 (m<sup>3</sup>/鋼棒, 又はケーブル100m)

種別	規格	シース径(mm)	グラウト量	種別	規格	シース径(mm)	グラウト量
バ ー シ ス テ ム	φ17 (1B17A, 1B17B)	40	0.13	シ ン グ ル ス ト ラ ン ド シ ス テ ム	98kN (10t)型 (1S12.4)	40	0.15
		40	0.11			200kN (20t)型 (1S15.2)	40
	φ23 (1B23A, 1B23B)	50	0.20		390kN (40t)型 (1S17.8)		40
		40	0.09			50	0.22
	φ26 (1B26A, 1B26B)	50	0.19		450kN (50t)型 (1S19.3)	40	0.13
		40	0.06			50	0.22
	φ32 (1B32A, 1B32B)	50	0.15		570kN (60t)型 (1S21.8)	40	0.11
						50	0.21

(注) 1. グラウト材料は、ロスを含んだものである。

2. シース径が上表と異なる場合のグラウト量は、次式により算出するものとする。

$$V = \left( \frac{\pi \cdot D1^2}{4} - \frac{\pi \cdot D2^2}{4} \right) \div 10^4 \times 100 \times (1+K)$$

V : グラウト材料(m<sup>3</sup>)

[100m当りで算出し、小数2位止(3位四捨五入)とする]

D1 : シース径(mm)

D2 : 鋼棒及びケーブル径(mm)

K : 補正係数 +0.3

削除

現行数量算出要領

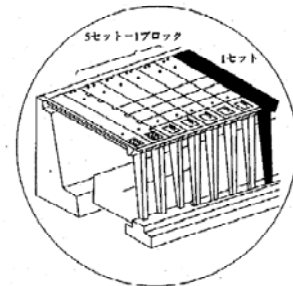
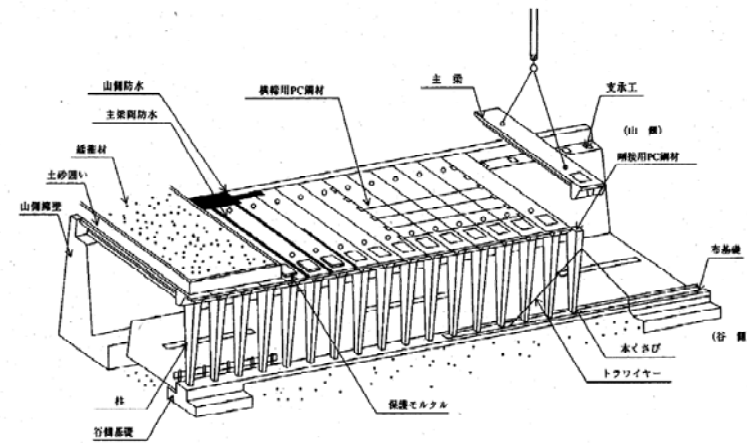
改正数量算出要領

改正内容

第3編(道路編)第2章(付属施設工)2.3.2 洞門(フレキャスト製シェット)工

第3編(道路編)第2章(付属施設工)2.3.2 洞門(フレキャスト製シェット)工

5. 参考図(施工要領図(逆L型))



3-2-17

削除

歩掛使用件数  
減少に伴う廃止

## 現行数量算出要領

## 改正数量算出要領

## 第3編（道路編） 第3章（道路維持修繕工） 3.6 路上表層再生工

改正内容

## 3.6 路上表層再生工

## 1. 適用

路上におけるアスファルト混合物の路上表層再生工（リペーブ工法、リミックス工法）に適用する。

## 2. 数量算出項目

路上表層再生の面積を区分ごとに算出する。

## 3. 区分

区分は規格とする。

## (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考
路上表層再生		○	m <sup>2</sup>		

## (2) 規格区分

路上表層再生の面積を使用する材料及び工法（リペーブ工法、リミックス工法）ごとに区分して算出する。

## 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

## (1) 路上表層再生の内訳は下記の項目で算出する。

m<sup>2</sup> 当り

項目	区分	規格	単位	数量	備考
新規合材		○	mm		厚さ
添加剤		○	t		

削除

歩掛使用頻度の減少に伴う廃止

現行数量算出要領

改正数量算出要領

第3編(道路編) 第3章(道路維持修繕工) 3.14.2 道路付属物清掃工

改正内容

3.14.2 道路付属物清掃工

1. 適用

ガードレール、ガードパイプ、視線誘導標、標識の清掃作業に適用する。

ガードレール、ガードパイプ、視線誘導標の清掃作業に適用する。

2. 数量算出項目

ガードレールや標識等の清掃の延長などを算出する。

ガードレール等の清掃の延長などを算出する。

3. 区分

区分は作業区分とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	作業区分	単位	数量	備考
ガードレール清掃	○	km		(機械)
ガードパイプ清掃	×	m		(人力)
視線誘導標清掃	○	本		(人力)
標識清掃	○	枚		(機械)
標識清掃	×	枚		(人力)

項目	作業区分	単位	数量	備考
ガードレール清掃	○	km		(機械)
ガードパイプ清掃	×	m		(人力)
視線誘導標清掃	○	本		(人力)

(2) 作業区分

ガードレールの作業区分は以下のとおりとする。

- ①支柱清掃なし
- ②支柱清掃あり

視線誘導標の作業区分は支柱付とガードレール用及び頭部のみの2つとする

機械清掃の標識の作業区分は、標識板幅2.5m以下と超えるものに区分する。

削除

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 機械による清掃は実作業延長と移動距離を算出する。

ただし、ガードレール清掃について、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が5.0m未満の場合は清掃延長に含めて算出するものとする。

(2) 標識は構造形式(路側式、片持式、門型式)により区分するものとする。

削除

歩掛使用頻度の減少に伴う廃止(標識清掃工)に伴う改正

現 行 数 量 算 出 要 領

改 正 数 量 算 出 要 領

改正内容

第3編（道路編） 8章橋梁補修工 プレキャストPC床版設置工

第3編（道路編） 8章橋梁補修工 プレキャストPC床版設置工

8.6 プレキャストPC床版設置工

1. 適用

既設桁橋におけるプレキャストPC床版への取替、及びプレキャストPC床版の新設に適用するものとし、ループ継手等の橋軸方向の縦締めを行わない床版設置には適用しない。

2. 数量算出項目

床版撤去、プレキャストPC床版設置を区分毎に算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区 分	規格・仕様	単 位	数 量	備 考
床版撤去		×	m <sup>2</sup>		工法別に区分し算出する
プレキャストPC床版設置		○	m <sup>2</sup> (枚)		

(2) 規格・仕様区分

- 1) プレキャストPC床版設置
- <1>桁種別
  - ①合成桁
  - ②非合成桁

4. 数量算出方法

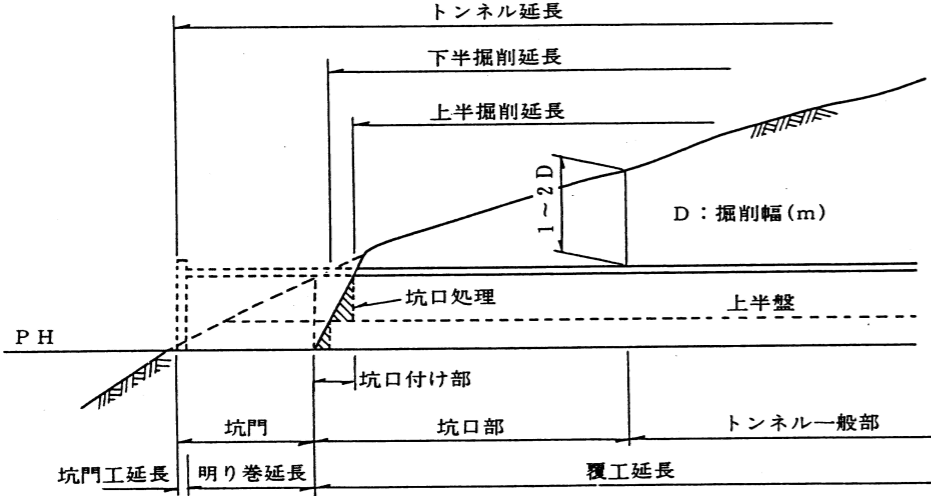
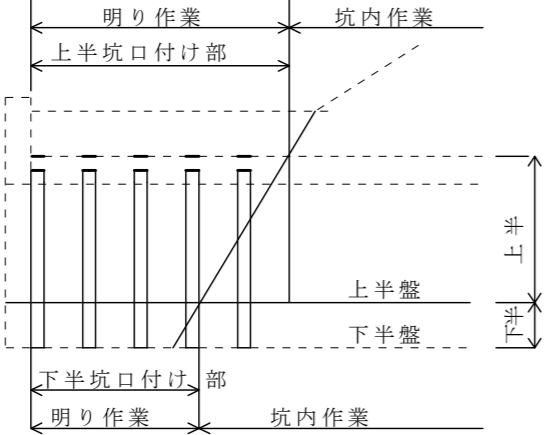
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) プレキャストPC床版設置の内訳は、下表の項目で算出する。

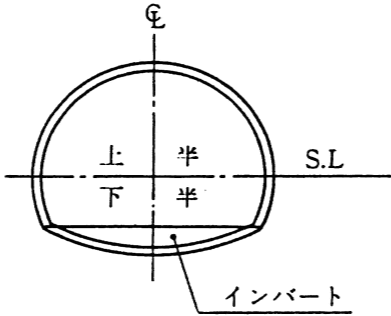
項目	区 分	規格・仕様	単 位	数 量	備 考
プレキャストPC床版		○	m <sup>2</sup>		1枚当り質量(W) ○kg/枚
PC鋼線		○	m		
定着装置		○	個		
シール材（スポンジ類）		○	m		
PCグラウト材		○	m <sup>3</sup>		
スタッドジベル		○	本		
充填材（無収縮モルタル）		○	m <sup>3</sup>		

削除

歩掛使用件数減少に伴う廃止

改正理由	経年変化に伴う全面改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<p><b>9章 トンネル工</b></p> <p><b>9.1 NATM(発破・機械掘削工法(坑口含む)、非常駐車帯工)</b></p> <p><b>9.1.1 適用</b></p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>NATMによるトンネル工(発破工法・非常駐車帯)については掘削区分 B から D II、NATMによるトンネル工(機械掘削工法・非常駐車帯)については、掘削区分 C I から D II、NATMによるトンネル工(坑口工)については掘削区分 B から D IIIに適用する。</p> </div> <p>2. トンネル延長</p> <p>トンネル延長は、下図のとおりとする。</p>  <p>3. 坑口部詳細</p>  <p style="text-align: center;">3-9-2</p>	<p>現行どおり</p> <p>NATMによるトンネル工(発破工法・非常駐車帯)については掘削区分 <u>C I</u>から D II、NATMによるトンネル工(機械掘削工法・非常駐車帯)については、掘削区分 C Iから D II、NATMによるトンネル工(坑口工)については掘削区分 <u>C I</u>から D IIIに適用する。</p> <p>現行どおり</p>	<p>岩区分 B の削除</p>	
積算上の注意事項			<p style="text-align: right;">1 / 4 (控え頁)</p>

改正理由	経年変化に伴う全面改正	改正 現行	
------	-------------	----------	--

現行	改正	備考																																																																																																																								
<p>(3) 加背割区分 加背割による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>① 上部半断面 ② 下部半断面 ③ インバート</p> <p>注) 1. 上記区分は、設計掘削断面積 50 m<sup>2</sup>以上の標準的な加背割区分であり、これにより難しい場合は別途区分する。 2. インバートは岩の性状により設置する場合に区分する。</p>  <p>(4) 設計掘削断面積</p> <p>・設計掘削断面積 (発破工法・坑口工 (発破工法))</p> <table border="1" data-bbox="329 905 1160 1377"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削区分</th> <th>設計掘削断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面積範囲 (m<sup>2</sup>)</th> <th>区分</th> <th>掘削区分</th> <th>設計掘削断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面積範囲 (m<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">坑口工 発破工法</td> <td rowspan="5">B・CⅠ</td> <td>50</td> <td>50.0 ≦ A &lt; 52.5</td> <td rowspan="10">坑口工 発破工法</td> <td rowspan="5">DⅠ・DⅡ</td> <td>40</td> <td>40.0 ≦ A &lt; 42.5</td> </tr> <tr> <td>55</td> <td>52.5 ≦ A &lt; 57.5</td> <td>45</td> <td>42.5 ≦ A &lt; 47.5</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>57.5 ≦ A &lt; 62.5</td> <td>50</td> <td>47.5 ≦ A &lt; 52.5</td> </tr> <tr> <td>65</td> <td>62.5 ≦ A &lt; 67.5</td> <td>55</td> <td>52.5 ≦ A &lt; 57.5</td> </tr> <tr> <td>70</td> <td>67.5 ≦ A &lt; 72.5</td> <td>60</td> <td>57.5 ≦ A &lt; 62.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">CⅡ</td> <td>75</td> <td>72.5 ≦ A &lt; 77.5</td> <td rowspan="5">上半</td> <td>65</td> <td>62.5 ≦ A &lt; 67.5</td> </tr> <tr> <td>80</td> <td>77.5 ≦ A &lt; 82.5</td> <td>70</td> <td>67.5 ≦ A &lt; 72.5</td> </tr> <tr> <td>85</td> <td>82.5 ≦ A &lt; 87.5</td> <td>75</td> <td>72.5 ≦ A &lt; 75.0</td> </tr> <tr> <td>90</td> <td>87.5 ≦ A &lt; 92.5</td> <td>10</td> <td>10.0 ≦ A &lt; 12.5</td> </tr> <tr> <td>95</td> <td>92.5 ≦ A &lt; 95.0</td> <td rowspan="5">DⅠ・DⅡ</td> <td>15</td> <td>12.5 ≦ A &lt; 17.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td rowspan="5">下半</td> <td>20</td> <td>17.5 ≦ A &lt; 22.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>25</td> <td>22.5 ≦ A &lt; 27.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>30</td> <td>27.5 ≦ A &lt; 32.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>35</td> <td>32.5 ≦ A &lt; 35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>・設計掘削断面積 (機械掘削工法・坑口工 (機械掘削工法))</p> <table border="1" data-bbox="329 1465 1145 1776"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削区分</th> <th>設計掘削断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面積範囲 (m<sup>2</sup>)</th> <th>区分</th> <th>掘削区分</th> <th>設計掘削断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面積範囲 (m<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">坑口工 機械掘削工法</td> <td rowspan="5">CⅠ</td> <td>40</td> <td>40.0 ≦ A &lt; 42.5</td> <td rowspan="10">坑口工 機械掘削工法</td> <td rowspan="5">CⅠ・CⅡ</td> <td>10</td> <td>10.0 ≦ A &lt; 12.5</td> </tr> <tr> <td>45</td> <td>42.5 ≦ A &lt; 47.5</td> <td>15</td> <td>12.5 ≦ A &lt; 17.5</td> </tr> <tr> <td>50</td> <td>47.5 ≦ A &lt; 52.5</td> <td>20</td> <td>17.5 ≦ A &lt; 22.5</td> </tr> <tr> <td>55</td> <td>52.5 ≦ A &lt; 57.5</td> <td>25</td> <td>22.5 ≦ A &lt; 27.5</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>57.5 ≦ A &lt; 62.5</td> <td rowspan="5">DⅠ・DⅡ</td> <td>30</td> <td>27.5 ≦ A &lt; 32.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">DⅠ</td> <td>65</td> <td>62.5 ≦ A &lt; 67.5</td> <td rowspan="5">下半</td> <td>35</td> <td>32.5 ≦ A &lt; 35.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">DⅡ</td> <td>70</td> <td>67.5 ≦ A &lt; 72.5</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>75</td> <td>72.5 ≦ A &lt; 75.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )	坑口工 発破工法	B・CⅠ	50	50.0 ≦ A < 52.5	坑口工 発破工法	DⅠ・DⅡ	40	40.0 ≦ A < 42.5	55	52.5 ≦ A < 57.5	45	42.5 ≦ A < 47.5	60	57.5 ≦ A < 62.5	50	47.5 ≦ A < 52.5	65	62.5 ≦ A < 67.5	55	52.5 ≦ A < 57.5	70	67.5 ≦ A < 72.5	60	57.5 ≦ A < 62.5	CⅡ	75	72.5 ≦ A < 77.5	上半	65	62.5 ≦ A < 67.5	80	77.5 ≦ A < 82.5	70	67.5 ≦ A < 72.5	85	82.5 ≦ A < 87.5	75	72.5 ≦ A < 75.0	90	87.5 ≦ A < 92.5	10	10.0 ≦ A < 12.5	95	92.5 ≦ A < 95.0	DⅠ・DⅡ	15	12.5 ≦ A < 17.5			下半	20	17.5 ≦ A < 22.5			25	22.5 ≦ A < 27.5			30	27.5 ≦ A < 32.5			35	32.5 ≦ A < 35.0	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )	坑口工 機械掘削工法	CⅠ	40	40.0 ≦ A < 42.5	坑口工 機械掘削工法	CⅠ・CⅡ	10	10.0 ≦ A < 12.5	45	42.5 ≦ A < 47.5	15	12.5 ≦ A < 17.5	50	47.5 ≦ A < 52.5	20	17.5 ≦ A < 22.5	55	52.5 ≦ A < 57.5	25	22.5 ≦ A < 27.5	60	57.5 ≦ A < 62.5	DⅠ・DⅡ	30	27.5 ≦ A < 32.5	DⅠ	65	62.5 ≦ A < 67.5	下半	35	32.5 ≦ A < 35.0	DⅡ	70	67.5 ≦ A < 72.5			75	72.5 ≦ A < 75.0			<p>現行どおり</p> <p>CⅠ CⅡ</p> <p>現行どおり</p>	<p>岩区分 B の削除</p>
区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )																																																																																																																			
坑口工 発破工法	B・CⅠ	50	50.0 ≦ A < 52.5	坑口工 発破工法	DⅠ・DⅡ	40	40.0 ≦ A < 42.5																																																																																																																			
		55	52.5 ≦ A < 57.5			45	42.5 ≦ A < 47.5																																																																																																																			
		60	57.5 ≦ A < 62.5			50	47.5 ≦ A < 52.5																																																																																																																			
		65	62.5 ≦ A < 67.5			55	52.5 ≦ A < 57.5																																																																																																																			
		70	67.5 ≦ A < 72.5			60	57.5 ≦ A < 62.5																																																																																																																			
	CⅡ	75	72.5 ≦ A < 77.5		上半	65	62.5 ≦ A < 67.5																																																																																																																			
		80	77.5 ≦ A < 82.5			70	67.5 ≦ A < 72.5																																																																																																																			
		85	82.5 ≦ A < 87.5			75	72.5 ≦ A < 75.0																																																																																																																			
		90	87.5 ≦ A < 92.5			10	10.0 ≦ A < 12.5																																																																																																																			
		95	92.5 ≦ A < 95.0			DⅠ・DⅡ	15	12.5 ≦ A < 17.5																																																																																																																		
		下半	20	17.5 ≦ A < 22.5																																																																																																																						
			25	22.5 ≦ A < 27.5																																																																																																																						
			30	27.5 ≦ A < 32.5																																																																																																																						
			35	32.5 ≦ A < 35.0																																																																																																																						
区分	掘削区分		設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m <sup>2</sup> )	断面積範囲 (m <sup>2</sup> )																																																																																																																		
坑口工 機械掘削工法	CⅠ	40	40.0 ≦ A < 42.5	坑口工 機械掘削工法	CⅠ・CⅡ	10	10.0 ≦ A < 12.5																																																																																																																			
		45	42.5 ≦ A < 47.5			15	12.5 ≦ A < 17.5																																																																																																																			
		50	47.5 ≦ A < 52.5			20	17.5 ≦ A < 22.5																																																																																																																			
		55	52.5 ≦ A < 57.5			25	22.5 ≦ A < 27.5																																																																																																																			
		60	57.5 ≦ A < 62.5			DⅠ・DⅡ	30	27.5 ≦ A < 32.5																																																																																																																		
	DⅠ	65	62.5 ≦ A < 67.5		下半		35	32.5 ≦ A < 35.0																																																																																																																		
		DⅡ	70				67.5 ≦ A < 72.5																																																																																																																			
			75				72.5 ≦ A < 75.0																																																																																																																			

改正理由	経年変化に伴う全面改正	改正 現行	
------	-------------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

・設計掘削断面積（非常駐車帯工（発破工法））

区分	掘削区分	設計掘削断面積(m <sup>2</sup> )	断面積範囲(m <sup>2</sup> )	区分	掘削区分	設計掘削断面積(m <sup>2</sup> )	断面積範囲(m <sup>2</sup> )
非常発破工法	B・C I・C II	70	70.0 ≦ A < 75.0	非常発破工法	D I・D II	60	60.0 ≦ A < 65.0
		80	75.0 ≦ A < 85.0			70	65.0 ≦ A < 75.0
		90	85.0 ≦ A < 95.0			80	75.0 ≦ A < 85.0
		100	95.0 ≦ A < 105.0			90	85.0 ≦ A < 95.0
		110	105.0 ≦ A < 115.0			100	95.0 ≦ A < 105.0
	120	115.0 ≦ A < 125.0	110		105.0 ≦ A < 110.0		
	130	125.0 ≦ A < 130.0	10		10.0 ≦ A < 15.0		
			20		12.5 ≦ A < 17.5		
			30		17.5 ≦ A < 22.5		
			40		22.5 ≦ A < 27.5		
		50	27.5 ≦ A < 32.5				

・設計掘削断面積（非常駐車帯工（機械掘削工法））

区分	掘削区分	設計掘削断面積(m <sup>2</sup> )	断面積範囲(m <sup>2</sup> )	区分	掘削区分	設計掘削断面積(m <sup>2</sup> )	断面積範囲(m <sup>2</sup> )
非常機械掘削工法	C I・C II	60	60.0 ≦ A < 65.0	非常機械掘削工法	C I・D I	10	10.0 ≦ A < 15.0
		70	65.0 ≦ A < 75.0			20	12.5 ≦ A < 17.5
		80	75.0 ≦ A < 85.0			30	17.5 ≦ A < 22.5
		90	85.0 ≦ A < 95.0			40	22.5 ≦ A < 27.5
		100	95.0 ≦ A < 105.0			50	27.5 ≦ A < 32.5
	110	105.0 ≦ A < 110.0					

注) 1. 掘削断面積には、余堀を含まない。  
 2. 発破工法・機械掘削工法・坑口工については、設計掘削断面積の適用範囲は  $50\text{ m}^2 \leq A (= \text{上半} + \text{下半}) < 95\text{ m}^2$  である。非常駐車帯工については、設計掘削断面積の適用範囲は  $70\text{ m}^2 \leq A (= \text{上半} + \text{下半}) < 130\text{ m}^2$  である。

1) 設計掘削断面積 50m<sup>2</sup>以上の場合

掘削方法	掘削区分	余堀厚(cm)	余巻厚(cm)	余吹厚(cm)
発破掘削	B	27	23	4
	C I	22	17	5
	C II	20	13	7
	D I	17	10	7
	D II	17	10	7
機械掘削	C I	13	8	5
	C II	13	8	5
	D I	13	8	5
	D II	13	8	5

注) 1. 設計巻厚、設計吹付コンクリート厚及び設計掘削断面に対する割増し厚さである。  
 2. 非常駐車帯・避難連絡坑等についても上表を適用する。  
 3. 変形余巻厚を見込む場合の余堀・余巻は、上表より5cm減じ、掘削断面に変形余巻厚を加えるものとする。  
 4. 設計掘削半径と支保掘削半径との関係は、次図を標準とする。  
 5. インパルト部の余堀厚及び余巻厚は5cmとする。  
 6. 掘削区分D IIIは、D IIに準じるものとする。

改 正 理 由	経年変化に伴う全面改正	<u>改 正</u> 現 行	
---------	-------------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

9. 1. 3 覆工コンクリート・防水工

1. 数量算出項目

覆工コンクリート・防水延長を区分ごとに算出する。

2. 区分

区分は、掘削、掘削断面積とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	掘 削	掘 削 断 面 積	単 位	数 量	備 考
掘削延長	○	○	m		覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。

(2) 掘削・掘削断面積区分

掘削による区分は、「9. 1. 2 掘削・支保工」による。

(3) 設計掘削断面積

区 分	掘 削 区 分	設 計 掘 削 断 面 積 (m <sup>2</sup> )	断 面 積 範 囲 (m <sup>2</sup> )
発 破 機 械 掘 削 工 法	坑 口 工 含 む	B	50.0 ≤ A < 52.5
		C I、II	52.5 ≤ A < 57.5
		D I、II	57.5 ≤ A < 62.5
		D III	62.5 ≤ A < 67.5
			67.5 ≤ A < 72.5
			72.5 ≤ A < 77.5
			77.5 ≤ A < 82.5
			82.5 ≤ A < 87.5
			87.5 ≤ A < 92.5
	92.5 ≤ A < 95.0		

区 分	掘 削 区 分	設 計 掘 削 断 面 積 (m <sup>2</sup> )	断 面 積 範 囲 (m <sup>2</sup> )
非 常 駐 車 帯 工	B ・ C I、II ・ D I、II	70	70.0 ≤ A < 75.0
		80	75.0 ≤ A < 85.0
		90	85.0 ≤ A < 95.0
		100	95.0 ≤ A < 105.0
		110	105.0 ≤ A < 115.0
		120	115.0 ≤ A < 125.0
		130	125.0 ≤ A < 130.0

現行どおり

C I、II  
・  
D I、II  
・  
D III

C I、II  
・  
D I、II

注) 1. 掘削断面積には、余堀を含まない。